

グループで取り組む衛生技術の継承

先輩から後輩へ 休日利用の勉強会

神奈川県労働衛生研究会執行部 白鳥将志

今回は、神奈川県労働衛生研究会の活動を紹介します。

1. 設立の経緯

神奈川県労働衛生研究会は、社団法人神奈川県労働安全衛生協会（以下 協会）の衛生管理推進委員会や労働衛生技術委員会といった専門部会のメンバー有志で昭和59年に発足させた研究会です。昭和61年には協会のバックアップを受け 協会本部で開催するようになり、活動日が毎月第1土曜日であることから、通称「土曜会」と呼ぶようになりました。

その後 平成に入り、産業看護職が如わることでさらに活動の幅が広がり、企業における安全衛生 健康管理について研鑽を続けているプロフェッショナル集団となっています。

こうした活動が評価され、これまで全国衛生管理者協議会や 協会の専門部会等に多くの土曜会メンバーが参加しています。

2. 活動内容

土曜会は 労働衛生に関する実務ベースの技術向上を目的とし 自分の考えを遠慮なく話し合い、建設的な意見であれば何を言っても構わない。また、よい意見やアイデアは素直に賛同し、気に入らなければ代案を述べるといった約束ごとの上に成り立っています。

…と 書き出すと堅苦しくなりますが、労働衛生について老若男女、大御所も若手も本音で問題をぶつけあい 時には毎年恒例のキャンプ合宿といったイベントを通じ、業種を超えた交流を行っています。

活動としては、設立当初より衛生管理者実務マニュアルの作成を中心に労働安全衛生法の運用方法について検討を行っていました。こうした活動の成果は、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の基本となるPDCAサイクルの考え方による労働衛生管理業務手順書(以下、ワーキングガイド)として結実し、2002年に福岡で開催された全国産業安全衛生大会(安全衛生部会：マネジメントシステム分科会)で報告しました。

その後、ワーキングガイドの業務項目の見直しや、実施項目のチェックリスト化を行い、より実践的なものにしました。また最近では個人情報保護法の施行に伴う、健康診断のあり方等の検討も行いました。

3. ワーキングガイドの紹介

ワーキングガイドの作成にあたり、まず日常業務の棚卸しを行い、その34の業務について、作業環境管理・作業管理・健康管理の三管理の他、これらを含む総括衛生管理・衛生教育の2つを加えた五管理のもとに体系化し、労働衛生管理体系図(以下、フィッシュボーン)(図1)を作成しました。ワーキングガイドはそれらの業務について進め方のポイントを実務ペースで整理したものです。作成にあたっては業務の標準化を目指し、計画・実施・評価・対応と分け、各ステップごとに実施項目がチェックできるようにしました(図2)。特徴として業務本来の意味を明らかにしたうえで、実施項目につなげることが挙げられます。

4. 執行部の発足

社会的に団塊の世代が大量に定年退職となるいわゆる「2007年問題」が叫ばれるなか、土曜会も結成20年が過ぎ、これまで神奈川の労働衛生をつくってきたといっても過言ではない先輩方のノウハウを、より積極的に学ぶ機会は今しかないという思いが、若手会員の間に生まれました。そこで若手だけの執行部結成について承認をいただき、新たな活動の模索に乗り出しました。

5. 現在の活動から

執行部の狙いは、技術の伝承というところ格好がよいのですが、まずは先輩方の知識・経験を盗みだすことからと思っています。そこで現在の会合は二部構成で行い、第一部で先輩方からこれまでの安全衛生に関わる経験談をお話しいただき、第二部では、それを受けた形で、今後の安全衛生活動や土曜会のあり方、あるいは会員からの問題提起による討議を行っており、現在は次年度の活動計画に対し議論を重ねている最中です。

特に第一部の講話では、例えば社内安全教育の立上げ談に大きな推進力を感じたり、時には失敗談から先輩を身近に感じることもでき、日々の業務への大きなヒントになっています。

先日は「産業看護の来し方・未来」というタイトルで講演をいただきました(写真)。昭和47年10月の労働安全衛生法施行にあたり、当時まだまだ理解が不十分であった産業看護職について 地位の確立と質の向上を求め、積極的に行取へ働きかけ、昭和48年6月に「衛生管理者としての保健婦(現在は保健師)の活用について」という労働基準局労働衛生課長通達として文書化された話は 既製概念にとらわれることが多い自分にとって、衛撃的でした。そして、これまで先輩方がつくり上げてきた産業看護の活動を、私たちが今後も受け継いでいかなければいけないと強く感じました。

6. 今後に向けて

実は、執行部発足前の数年間は土曜会の出席率が低下傾向にあり、活動の停滞が見受けられたこともありました。執行部発足からまだ半年ほどしか経っておりませんが、若手からの提案で、会員のレベルアップのために、先輩方がこれまで増われてきた知識・経験を披露してもらい、ノウハウを学習する。それぞれが抱えている闇題点を、ディスカッションして知恵を出し合う。その際 先輩方がいることでアドバイスをもらえるなどの運営方針を立てて会合を見直した結果、このところ出席率も向上し、会員の意欲も増してきたようです。多くの人が集まる場所にはアイデアや刺激といった起動力が生まれ その結果、各会員の活動もより大きなものになると思います。今後も垣根のない会員同士の意見交換を進めながら、安全衛生技術の伝承を目指し活動を推進していきたいと思っています。

(しらとり まさし)